Sat. Jun 30, 2018

第4会場

交流集会

交流集会1

クリティカルケア領域における終末期ケアプラクティスガイドライン（案）の作成

10:40 AM - 12:00 PM 第4会場 (2階 福寿)

[交流集会1] クリティカルケア領域における終末期ケアプラクティスガイドライン（案）の作成

立野 淳子, 小島 朗, 田山 聡子, 中谷 美紀子, 比田井 理恵, 藤本 理恵, 山勢 博彰

交流集会

交流集会4

利益相反（ Conflict of Interest： COI）についての理解ーどこにでもある利益相反ー

3:40 PM - 4:40 PM 第4会場 (2階 福寿)

[交流集会4] 利益相反（ Conflict of Interest： COI）についての理解ーどこにでもある利益相反ー

飯田　香緒里 （東京医科歯科大学　教授・産学連携研究センター長）

交流集会

交流集会5

急性・重症患者の回復を促す看護実践モデルの構築

座長:中村 美鈴(東京慈恵会医科大学 医学部看護学科)

4:45 PM - 5:45 PM 第4会場 (2階 福寿)

[交流集会5] 急性・重症患者の回復を促す看護実践モデルの構築

○明石 惠子[1], 宇都宮 明美[2], 茂呂 悦子[3], 丸谷 幸子[4], 吉田 紀子[5], 松沼 早苗[6], 町田 真弓[7] （1.名古屋市立大学看護学部, 2.京都大学大学院医学研究科, 3.自治医科大学附属病院, 4.名古屋市立大学 病院 ICUPICUCCU, 5.獨協医科大学病院, 6.自治医科大学附属病院 集中治療部, 7.前橋赤十字病院）

第5会場

交流集会

交流集会2

院内で行うシミュレーション教育のコツ

10:40 AM - 12:00 PM 第5会場 (2階 平安)

[交流集会2] 院内で行うシミュレーション教育のコツ

○吉冨 由紀子[1], 雀地 洋平[2] （1.福岡青洲会病院, 2.KKR札幌医療センター）

第6会場

交流集会

交流集会3

Stop！不正行為ー投稿における落とし穴

10:40 AM - 12:00 PM 第6会場 (2階 瑞雲)

[交流集会3] Stop！不正行為ー投稿における落とし穴

編集委員会

中村美鈴、佐藤冨美子、清村紀子、林みよ子、田口豊恵、

矢富有見子、福田美和子、岡田彩子、小泉雅子、吉田紀子

倫理委員会

秋元典子、伊藤真理、江川幸二、奥村美奈子、田口智恵美

©Japan Academy of Critical Care Nursing

交流集会

交流集会1
クリティカルケア領域における終末期ケアプラクティスガイドライン（案）の作成

Sat. Jun 30, 2018 10:40 AM - 12:00 PM 第4会場 (2階 福寿)

企画:終末期ケア委員会

[交流集会1] クリティカルケア領域における終末期ケアプラクティスガイドライン（案）の作成

立野 淳子, 小島 朗, 田山 聡子, 中谷 美紀子, 比田井 理恵, 藤本 理恵, 山勢 博彰

©Japan Academy of Critical Care Nursing

(Sat. Jun 30, 2018 10:40 AM - 12:00 PM 第4会場)

[交流集会1] クリティカルケア領域における終末期ケアプラクティスガイドライン（案）の作成

立野 淳子, 小島 朗, 田山 聡子, 中谷 美紀子, 比田井 理恵, 藤本 理恵, 山勢 博彰

本学会では終末期ケアの質の向上を図るために終末期ケアのあり方を検討することを目的に、平成27年より「終末期ケア検討ワーキング」を発足させました。

終末期ケア検討ワーキングの活動は、「わが国の集中治療における終末期ケアの組織体制と看護ケアの実態」についてアンケートによる全国調査から開始しました。その結果から、より良い終末期ケアの実践に向けて、意思決定支援やチーム医療の推進など具体的な指針の必要性を確認しました。このワーキンググループは、平成29年より「終末期ケア委員会」となり、看護師のための終末期ケアプラクティスガイドライン（案）の作成を進めています。

本交流集会では、このガイドライン（案）の内容を公表し、臨床現場で活用できるガイドラインにしていくために、会場の皆様の意見を伺いながら、ディスカッションさせていただきたいと思います。

終末期ケアに興味のある方、臨床現場で終末期ケアに困った経験のある方、ガイドラインの必要性を感じている方にぜひ参加いただき、活発な議論をさせていただきたいと思っています。

多くの方の参加を心よりお待ちしています。

©Japan Academy of Critical Care Nursing

交流集会

交流集会4
利益相反（ Conflict of Interest： COI）についての理解ーどこにでもある利益相反ー

Sat. Jun 30, 2018 3:40 PM - 4:40 PM 第4会場 (2階 福寿)

企画:利益相反委員会

[交流集会4] 利益相反（ Conflict of Interest： COI）についての理解ーどこにでもある利益相反ー

飯田　香緒里（東京医科歯科大学　教授・産学連携研究センター長）

©Japan Academy of Critical Care Nursing

(Sat. Jun 30, 2018 3:40 PM - 4:40 PM 第4会場)

[交流集会4] 利益相反（ Conflict of Interest： COI）についての理解ーどこにでもある利益相反ー

飯田　香緒里 （東京医科歯科大学　教授・産学連携研究センター長）

クリティカルケア看護学の研究は、企業、組織、団体等との産学連携等により行われる場合が少なくありません。研究においては公明性、中立性が求められますが、産学連携研究により、学術的、倫理的責任を果たすことによって得られる成果の社会への還元（公的利益）と、産学連携活動に伴い研究者個人が取得する金銭、地位、利権など（私的利益）の２つの利益が研究者個人の中に生じる『利益相反（ conflict of interest: COI、以下COI）』が発生することがあります。

そのため本委員会は、本学会における学術活動の公明性と中立性を確保するために会員に対して COIに関する基本的な考え方を示すことを目的に、平成29年度に新しく設けられた委員会です。そして今回の学術集会から、自らの COI状態を自己申告によって適切に開示し、本指針を遵守することを求められるようになりました。

そこで今回の交流集会では、臨床看護師にとっては聞きなれない COIとは何か、重症患者の看護や看護研究・教育活動において起こりうる COI、申告や開示が必要な理由などについて知ることから始めたいと考えています。

本年度は、東京医科歯科大学において、産学連携活動推進及び知財管理、利益相反マネジメントを含む産学連携コンプライアンスの教育及び研究に従事し、臨床場面で直面する COIについてわかりやすく解説いただける専門家の先生をお招きいたします。

＜講師＞東京医科歯科大学　教授・産学連携研究センター長　飯田　香緒里　先生

ご講演後には、具体例を交えながら、 COIについて皆様と一緒に考えていきたいと思います。

1) どこにでもある利益相反
2) この行為、利益相反になりますか？
3) 利益相反は悪いことですか

©Japan Academy of Critical Care Nursing

交流集会

交流集会5
急性・重症患者の回復を促す看護実践モデルの構築

座長:中村 美鈴(東京慈恵会医科大学 医学部看護学科)

Sat. Jun 30, 2018 4:45 PM - 5:45 PM 第4会場 (2階 福寿)

[交流集会5] 急性・重症患者の回復を促す看護実践モデルの構築

○明石 惠子[1], 宇都宮 明美[2], 茂呂 悦子[3], 丸谷 幸子[4], 吉田 紀子[5], 松沼 早苗[6], 町田 真弓[7] （1.名古屋市立大学看護学部, 2.京都大学大学院医学研究科, 3.自治医科大学附属病院, 4.名古屋市立大学 病院ICUPICUCCU, 5.獨協医科大学病院, 6.自治医科大学附属病院 集中治療部, 7.前橋赤十字病院）

©Japan Academy of Critical Care Nursing

(Sat. Jun 30, 2018 4:45 PM - 5:45 PM 第4会場)

[交流集会5] 急性・重症患者の回復を促す看護実践モデルの構築

○明石 惠子[1], 宇都宮 明美[2], 茂呂 悦子[3], 丸谷 幸子[4], 吉田 紀子[5], 松沼 早苗[6], 町田 真弓[7] （1.名古屋市立大学看護学部, 2.京都大学大学院医学研究科, 3.自治医科大学附属病院, 4.名古屋市立大学 病院 ICUPICUCCU, 5.獨協医科大学病院, 6.自治医科大学附属病院 集中治療部, 7.前橋赤十字病院）

急性・重症患者の治療に対する看護実践は多く報告されていますが、回復を促すという看護独自の切り口で体系化された報告は見当りません。交流集会では、 CNSの皆様を対象に実施したグループインタビューの分析結果から見出された急性・重症患者の心身の回復を促す看護実践の構成要素と、それをもとに考案した看護実践モデルについて、参加者の皆様と討議したいと考えています。討議の成果は、急性・重症患者の回復を促す実践のより処として臨床への寄与が期待できます。急激な健康破綻を生じ、急性・重症患者の回復を促す看護実践、下図で示すＶラインをよりシャープにする看護実践モデルについて皆様と考究し洗練できればと思います。

また、今回は、看護実践モデル案の妥当性を検証するための QRコードを用いた
質問紙調査にもご協力いただければ幸いです。交流集会ではお待ちしています。
ご一緒に、急性・重症患者の回復を促す看護実践モデルを考えてみませんか？

©Japan Academy of Critical Care Nursing

交流集会

交流集会2
院内で行うシミュレーション教育のコツ

Sat. Jun 30, 2018 10:40 AM - 12:00 PM 第5会場 (2階 平安)

企画:教育委員会

[交流集会2] 院内で行うシミュレーション教育のコツ

○吉冨 由紀子[1], 雀地 洋平[2] （1.福岡青洲会病院, 2.KKR札幌医療センター）

©Japan Academy of Critical Care Nursing

(Sat. Jun 30, 2018 10:40 AM - 12:00 PM 第5会場)

[交流集会2] 院内で行うシミュレーション教育のコツ

○吉冨 由紀子[1], 雀地 洋平[2] （1.福岡青洲会病院, 2.KKR札幌医療センター）

皆様、シミュレーション教育の悩みをお持ちではないでしょうか？
「やっているけど結果が出ない」、「やりたいけど指導者が少ない」
「ぐだぐだ、だらだらしたシミュレーションになる」、
「そもそもやったことないし、ドキドキする」
「デブリーフィングとフィードバック何が違うの」などなど。
近年、臨床での現任教育及び基礎教育において、積極的にシミュレーション教育が取り入れられています。その目的は、手技習得から、患者観察、倫理的課題など様々だと思います。ただ、臨床におけるシミュレーション教育は、体験学習として完結してしまいがちで、せっかくシミュレーションを取り入れたのに企画者と学習者の目標のずれが生じたりすることもあると思います。さらに、もっと悪いことは企画者がシミュレーション教育を実施することが目的となっていたりする事もあるようです。
そこで今回、シミュレーション教育を企画し実践している施設の取り組みをご紹介いただき、その基盤となる教授設計の考え方、ちょっとした考え方のポイントなど、学会員の皆さんと悩みを解決する場を設けたいと思います。奮ってご参加ください。このセッションは参加型です。しゃべって共感して、議論して、ぜひ何かを持って帰ってください。院内研修の極意について会場の皆様と共に考えていきたいと思います。
教育委員のメンバーから本当は教えたくない内緒の話も聞けるかもしれません。

クリティカルケア看護学会教育委員
浅香えみ子、河合正成、川原千香子、小池伸享、
中村香代、政岡祐輝、三上剛人　（五十音順）

©Japan Academy of Critical Care Nursing

交流集会

交流集会3
Stop！不正行為ー投稿における落とし穴

Sat. Jun 30, 2018 10:40 AM - 12:00 PM 第6会場 (2階 瑞雲)

企画:編集委員会・倫理委員会

[交流集会3] Stop！不正行為ー投稿における落とし穴

編集委員会
中村美鈴、佐藤冨美子、清村紀子、林みよ子、田口豊恵、
矢富有見子、福田美和子、岡田彩子、小泉雅子、吉田紀子
倫理委員会
秋元典子、伊藤真理、江川幸二、奥村美奈子、田口智恵美

©Japan Academy of Critical Care Nursing

(Sat. Jun 30, 2018 10:40 AM - 12:00 PM 第6会場)

[交流集会3] Stop！不正行為ー投稿における落とし穴

編集委員会
中村美鈴、佐藤冨美子、清村紀子、林みよ子、田口豊恵、
矢富有見子、福田美和子、岡田彩子、小泉雅子、吉田紀子
倫理委員会
秋元典子、伊藤真理、江川幸二、奥村美奈子、田口智恵美

近年、科学研究において、データのねつ造や改ざん等の不正行為が相次いで指摘されています。人々に貢献するクリティカルケア看護学の確立と発展を目指す本学会は、研究倫理の向上の一環として、編集委員会および倫理委員会共同で「日本クリティカルケア看護学会誌の投稿に関する不正行為防止のためのガイドライン」（以下、本ガイドライン）を作成しました。本ガイドラインには科学の本質に反し、科学への信頼を失う不正な論文投稿の抑止を図り、本学会誌の学術的(臨床研究)かつ社会の信頼性を確保するために、不正行為の定義を明確にし、不正行為が行なわれた場合の対応を示しました。
交流集会ではまず、本ガイドラインの概要について説明します。本ガイドラインで取り上げた投稿にあたっての不正行為について解説し、本ガイドラインの適用と対象、審査委員、本学会誌に投稿あるいは掲載された論文に対して、不正行為あるいは疑いが生じた場合の措置について説明します。
本ガイドライン策定過程にあたって、投稿には悪質ではない、勘違いによる不正もあることから、罰則を重視するのではなく、不正に当たる行為であることが判明した時の著者への教育並びに全体的な啓発活動が重要であることを確認しました。投稿時に特に注意してほしい不正行為、または悪質ではない、勘違いによる不正行為などの事例を取り上げ、参加された方々の疑問に応えていきます。さらに、投稿における不正行為全般について討議します。皆様の参加をお待ちしています。

投稿規定 URL： http://jaccn.umin.jp/cntrbt/index.html

©Japan Academy of Critical Care Nursing